

希少 照葉 竹

コモチシダ

シシガシラ科

本州（宮城県以南）～沖縄・小笠原の向陽の山麓や海岸近くに生育する。常緑性。鱗片は細長く2-3cm。葉は厚く、2回羽状深裂で、大型の株では表面に無性芽をつける。

【牛久市の状況】牛久沼が縄文海進期に海であった時期の遺存種と考えられる。県内では海岸付近に分布するが、市内ではここが唯一の生育場所である。2018年の調査では切通し斜面に、大形5株、小形3株が認められた。市道に面した崖に生えるため今後、関係者の連携を図り保全を進めたい。



希少 照葉 竹

ハカタシダ

オシダ科

本州（秋田県以南）～九州の低山地の林中の崖や林床に生えるが、群生はしない。常緑性。光沢のある葉身は2回羽状複生し、葉は長さ30-40cm、幅15-35cmである。

【牛久市の状況】県内では山地を中心に「ややまれ」に分布するとされている。市内では2005年ころから竹林沿いの土手の一箇所に数株確認されてきたが、2018年の調査では道路の向かい側の屋敷林の法面にも2株確認され、他の場所にも生育している可能性がある。竹林・屋敷林の所有者と理解を深めながらの保全を進めたい。

希少 照葉

タブノキ

クスノキ科

本州～沖縄の海岸部に分布する常緑大高木で、照葉樹林の主要樹種。県内では南～北の海岸部に普通に分布するが、内陸の牛久市ではまれである。別名イヌグス。

【牛久市の状況】2008年、牛久沼東斜面林で発見された巨樹。2018年4月には幹周2.83m、樹高16.1mであった。これは牛久沼が縄文海進期に海であった時期の遺存種と考えられており、東・西谷田川沿いに数箇所タブノキの巨樹がある。牛久市ではこの1本だけであり、所有者との連携を図り保全に努めたい。

